# COSMOS

Eld: KouMUKAI
2-12-2, ASAHIMACHI, ABENO, OSAKA, JAPAN10
10, Dec, '80 No.243

イオム通信 向井 孝
大阪市阿倍野区旭町2—12—2

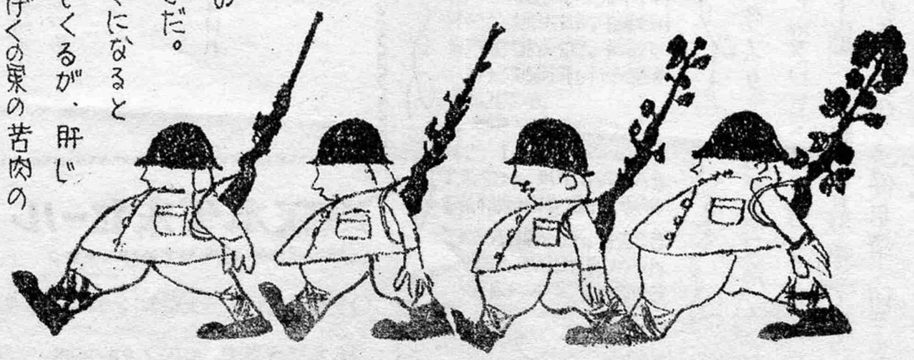

▼ 今号の「詩」はコスモスの30号・31号にのせたもの。いずれも原稿〆切日まぎわに入良心的軍事費拒否の会関西グループ〉の行動がたまたまあって、苦しまぎれにかきとばしたのだが今よみかえして、割合 気に入っている。むしろ「行動報告」としてよんでもらって、感想などもらえたらうれしい。

▼ ぼくが「詩」らしい形式のものをつくるのは、全くコスモスの原稿〆切日があるから、と云うほかない。会費の負担や、かく時間がないということで新日本文学会の会員をやめたのにコスモス同人としてまだ名を連ねているのは、秋山清さんの格別のはげましがあってのことだ。そのせいか、〆切日近くになると秋山さんの顔がうかんでくるが、毋じんの「詩」はさっぱり。あげくの果の苦肉の策というか、行き当りばったりというか、三も詩もないワイ、と開きなおって出来たのが、まあこんなものーというわけである。

▼ そんなつくり方のなかで、詩的?な詩がつくれるわけもなく、結局ぼくは、詩がかけないような散文的日常そのものをかくよりしようがない、それしか書けへんーということが、何となく判ってきた。しそれしか書けへんーと云ったが、「それなら書ける」わけではない。しそれで、やはり書けへんーという方がぴったりする。

だからともかく一篇をかき終って、ポストに投函をほりこみに行くときは、今年最大の仕事をやっつけた気分で、できれば帰り道は、一パイやりたいような浮かれ方。

▼ ……と、ここまで書きながら、もうそろそろ原稿〆切り日しらせてくるやろなーと考えて、果して次にも「詩」をつくって送れるやろか……と不安、というより全然、確信が持てない。何か書くタネがでてくるやろとアテにしながら、そのアテが全く思い当らない。20号から31号までへうち21号だけ休稿したがし、ずうっと、そのときそのとき、送りつけてきたことを思いかえして、それがまるで奇蹟で、夢のような気がする。いやはや……



● イオム通信をよんでやろうという方は、自分宛の住所氏名(ゴム印捺印で可)を記入した封筒に60円(切手)を貼付したもの5~6枚を同封宛お送り下さい。(大)

## 『熱烈歓迎?! 自衛隊様』

**1**

『みんな、聞け。この列車の大阪駅着は、21時1分である。

到着ホームの3番線側には、すでに〈専用列車、西鹿児島行き〉が待期している。

全員一分二〇秒以内で、転乗する。往路と同じく、一秒のおくれも許さない。

到着ホームは、民間人の立入りが、全面禁止である。

したがって、関西方面出身者で、家族等の出むかえがあっても、面会はできない。

なお、停車中、少数過激分子が挑発行為に出るおそれがあり、との情報もある。警務隊が出動配備している。われわれは 一切無視、黙殺する。相手にしてはならない。

いまより、転乗完了まで、私語を禁ずる。

よし下車用意!』

号令で、みんな一せいに立上る。

鉄かぶと、戦闘服、雑のう、の完全軍装。せまい通路にびっしりと体を押しつけて、夕闇の林のように。

**2**

列車は、大阪駅の大きな光のなかへ、ゆっくりはいっていく。

車窓のうしろへ飛んでいく隣りホームの明るい雑踏。

「おい、手をふってるぞ」

「おっ、女たちのでむかえ…」

『注意!窓際によってはならん』

小旗ふってる、あの娘、カッコイイ」

「おい、あの小旗、どうして黒丸や?」

『全員、下車』

とたんに、ぼくらは突きとばされたように車内からとびだしていく。

たちまち、プラットホームにあふれて、ひしめきながら、停っている3番線の車輌へとおしよせる。

**3**

北海道への侵攻を想定した、〈列島縦断、兵員緊急輸送・復路作戦〉

大阪での乗換え停車14分。

車窓にうつるとなりの2番ホームは、がらんとして、七・八人の人影だけ。

と、急に、中央階段あたりがさわがしくなる。

二〇人あまりの男女が、駆けあがってくる。

黒丸の小旗がゆれる

手をたきながら、こちらへゆっくり移動してくるらしい。

眼の前へ横断幕がきて、とまる。

〝熱烈歓迎?!お国の為に死んで下さる、自衛隊様〟

〝祈・武運長久!しかし次は核ボタン戦争〟

**4**

『ブラインドをおろせ!』

『鉄帽、装具は網棚にあげてよし』

発車ベルが鳴りつづけている。

線路ごしに、2番ホームから聞えてくる声。

「がんばって下さーい」

「ごくろうさんでーす」

「お国のために、仲よく、しましょう」

『注意!ブラインドのすき間から、覗いてはならん!』

「戦争になったら、逃げるんよー」

「上官の命令なんか、聞かんでもエエよー」

がたんと列車がゆれる。

車窓にならんで、ホームのはしを、だんだん走り出しながら、みんなで口々に叫んでいる。

「はよ、やめて、帰ってきてね」

「さよならー、体に気をつけてエー」

みるみる遠く、プラットホームのはずれでひとかたまりとなっていく。

「死んだらアカン。アカンでエー」

もう、まったく見えない。

**5**

——いま、列車が、鉄橋をわたりだす。

そのひびきにまじって

まだ、聞えている声。

いつまでも合図している、数十本の手。

……さよ、ならぁ……

はっと、自分の声に気付く

あたりをみまわして、それから、また

……死な、ないゾお……

……命令なんか、きかないゾお……

いま一そうはげしい、轟音の中。

k k k k

# 十一月二日の、戦争と平和

1

新聞「催し」ランに記事が出てる。

自衛隊発足30周年記念行事。2日9時～17時。式典、観閲式、訓練、展示、子供天国、模擬店など。陸上自衛隊伊丹駐とん地で

「こんなときしか、見物でけへんで」

「行くんやったら、ビラつくろか」

それで、手の中に入るほどの、小さな色紙のビラ二千枚。刷ったり、折ったり、六畳の部屋は、戦場さながら。

とうとう、朝五時まで――

2

午前十時半。阪急伊丹駅。

ポケットをビラでいっぱいふくらませて、降りてきたゲリラ兵士、九人。(うち おんな六人)

ところが駅前は、祝賀アーチどころか、案内版も見当らない。

家族連れの姿もない。

「なんも変ったとこ、あらへんなあ」

とたんにトラックが三台、迷彩服の隊員を満載して、走りすぎた。

「やっぱり、ここ、伊丹やった」

しかし、そのあとは、だだっぴろい国道の一本道を、テクテク、行軍三〇分。

エエ天気や――

3

伊丹市緑ケ丘七丁目。陸上自衛隊中部方面総監部、伊丹駐とん地。

きょうは、大きく解放している門。

すぐ左脇の番小屋に、イスが横一列にならんで、若い隊員がずらりと坐っている。

膝にこぶしをきちんとのせて。

4

前庭を通りすぎ、正面建物を左へ曲る。

ぱあっと、遠くまで視界がひらけて、百メートル先きから、うわあ、小学校の運動会や。

関東煮、ぜんざい、おすし……

道の片側に張ったテントのなか。

どっと笑い声があがって、家族にとり囲まれた隊員の、息子や、兄弟や、恋人に戻った顔。

戦争の気配なんてどこにもない――平和。

5

子供会やボーイスカウトのはしゃぎ声。

「もう少し銃口を上に、台尻はしっかり肩につける。さあ、息をとめて、よし、そう…射て！」

引金をひくと、実弾の代りに電子光線が出る。標的に命中すると、ランプがつく。

「うん、命中。80点」

お兄さんみたいな隊員が、一しょに腹這いになって、教えてくれる。

銃は、もちろん64式の本物。

だが、その横の、迷彩をほどこした戦車だって、きょうはジャングルジムやし

一五五ミリりゅう弾砲の砲身も、のぞきメガネと変りはない。

やさしいお兄さんたちと、戦争ゴッコしてあそぶ、たのしい広場の――平和。

6

手も足も出えへん

ビラ渡そうとしたら、みな隊員の家族にみえる。

小学生は、ビラを手にしてすぐ、お兄さんとこへ走っていきそうや。

ええい、パアッと空中にまきちらして――ビラ爆弾――と思ったとたん、横丁から赤い腕章の隊員。

こらアカン。…自分の心が縛られてしもて、どうしようもない。

――考えてみると、家族たちの平和をかきみだして、戦争を仕掛けるのは、こっちになってるやないか……

それで、見物してぐるぐる歩きまわって、四時間。

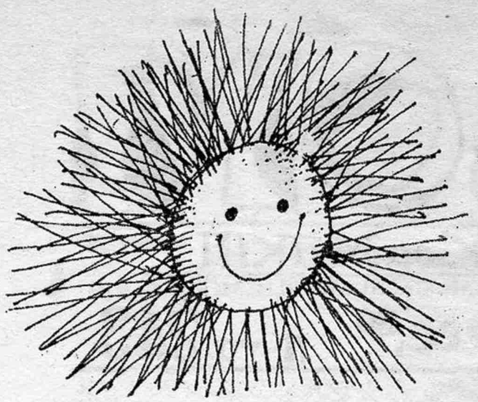
ミカン色のビラの束を、まるで爆弾のように、電話ボックス、便所の棚、食堂のメニューの下に、こっそり仕掛けてきたけど、

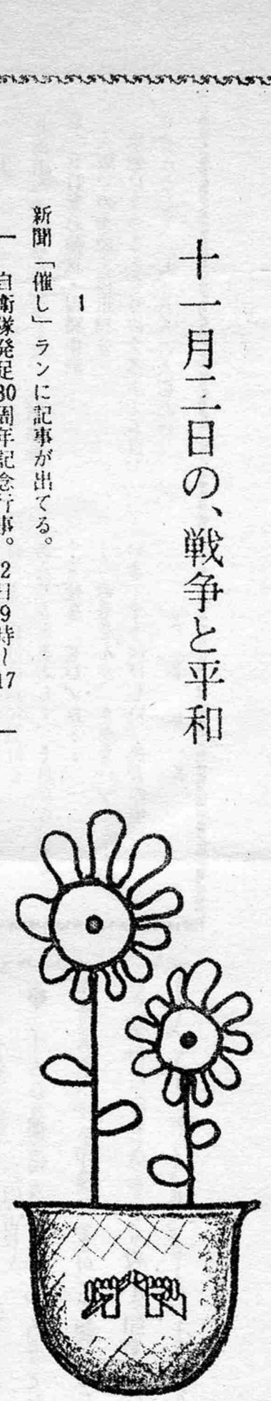
「自爆」せんかったのが、せめてのこと。

そこで、ゲリラの戦陣訓。

「平和の力をこそ、自分のものとして闘うのでなければ、アカン」

きょうの出撃戦果は――くたびれたなア。





『ぼくの宝物』と云うとすぐし大げさだが、下の『一九七二年三月一九日 朝日新聞』の切ぬきは、ぼくにとってとても大切な所蔵品というか記念品です！

さて、そこで、――このイボムをまったく封筒に貼った切手のスタンプをケシゴムでためしに消してみて下さい。(切手にぬるノリは化学ノリや安いヒメノリはダメ。文具屋などで通常売ってる黄色い容器に入っている「フエキ糊」の類が最適です。)

(切手の表面にノリをぬることは法律的に何ら違法ではありません。)使用済の切手を(水につけてはがし新聞紙でしめりをとりかわかしたあと)無疵の切手としてコレクションするのは差支えありませんが、絶対わからぬからと云って、再使用の発見されたり、再使用をすすめたりすると違法になる。


**取次本年末セール**

(2冊以上注文・送料当方負担します)

▶荒井まり子獄中書簡集〈呼び声は獄舎を越えて〉980円 ▶荒井まり子・黒川芳正・大道寺将司書簡集1〈共にひとつの闘いを〉300円 ▶獄中生活のてびき〈獄中者組合発行〉300円 ▶小野悦男〈でっちあげ〉1000円 ▶三一新書〈権力と闘うための法律知識〉割引500円 ▶〈現代と大逆事件―天皇制と死刑制度を問う―〉400円 ▶柏木隆法編〈大逆事件の周辺〉1800円 ▶難波大助大逆事件(増補版)1500円 ▶金子みすゞ獄中手記〈何が私をこうさせたか〉2400円 ▶アナキズムとエスペラント〈山鹿泰治・人とその生涯〉600円 ▶その他アナキズム関係黒色青年連盟社発行物などいろいろ。詩誌コスモス500円